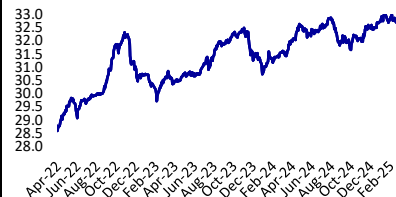
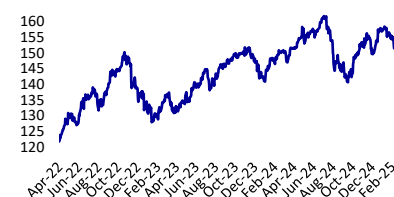


市場動向

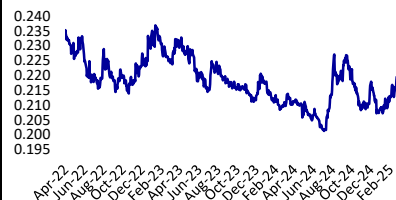
■USD/TWD



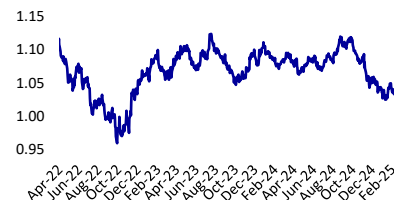
■USD/JPY



■JPY/TWD



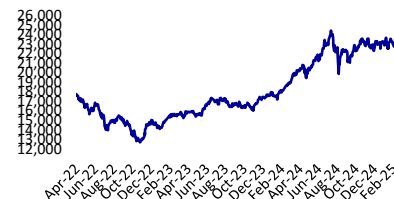
■EUR/USD



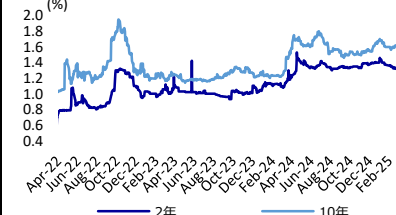
■USD/CNH



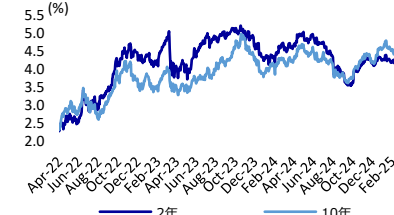
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初2/17は32.720でオープン後、人民元などのアジア通貨が堅調に推移したことに加え、台湾株の上昇もドルの上値を抑えた格好。2/18、台湾株が7か月ぶりの高値を更新したことで、台湾ドル買いが先行したものの、外資による送金に伴うドル買いが入り、一時32.80価格台まで上昇。2/19は、特段材料がない中、薄商いで方向感の出にくいレンジ相場となり、主に32.75-32.78価格を中心に上下。2/20は、円や人民元が上昇する中、アジア通貨全般に買いの圧力が掛かったものの、外資による海外ETF投資資金送金が見られ、ドル買いが優勢な展開となり、一時32.806まで上昇。2/21は、台湾株が比較的に堅調に推移したこともあり、ドルは終始上値重い展開。最終的には前週比0.08%ドル安台湾ドル高の32.745で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は314.3億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は下落。週初2/17は152.60でオープン後、市場予想を上回る日本国内のGDP速報値を受け、日銀利上げ期待を背景にドル円は151円台半ばまで買われた後、米国市場が休日となるため、為替市場は小動きに留まった。2/18は、ポジション調整でドル円は151円台半ばから152円前後まで買われた後、反落する場面も見られたが、欧米時間での米債利回りの上昇を受け、ドルは再び買い戻される展開。2/19は、米1月FOMC議事録では、「バランスシートのランオフの停止あるいは減速を検討するのが適切かもしれない」との内容が示されると、米金利の低下とともに151.40近辺まで下落。2/20は、米長期金利の低下と日本金利の上昇に伴う日米金利差縮小の思惑や、日本株安などのリスク要因で、アジア時間から円買いが強まり、ドル/円は下落基調に。2/21は、米消費関連の経済指標がやや軟調であることから、米金利は再び低下、ドル円は149円台前半まで下落。最終的には前週比1.97%ドル安円高の149.33で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.500-32.950

今週のドル/台湾ドルは揉み合いの推移を見込む。トランプ政権による関税政策や国際情勢の先行きに対する不透明感が強く、揉み合いの推移となるだろう。

■USD/JPY 予想レンジ：147.50-152.00

今週のドル/円は上値の重い推移を見込む。米金利には再び低下の圧力が強まっている。一方、日本金利は日銀の早期利上げ観測を受け上昇幅が拡大し、日米利回り格差の縮小傾向が鮮明となっている。今週の外為市場も円高の進行を警戒したい。

今週の予定

2/24 (MON)	東京市場休場、独2月Ifo景況感指数
2/25 (TUE)	台湾1月鉱工業生産、米2月CB消費者信頼感指数
2/26 (WED)	米1月新築住宅販売件数
2/27 (THU)	米1月耐久財受注
2/28 (FRI)	2月東京都都区消費者物価、米1月個人所得・個人支出・デフレーター

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。